

「官民による若手研究者発掘支援事業」（中間評価）

2023年度～2024年度 2年間

制度の説明（公開版）

2025年6月25日

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

フロンティア部

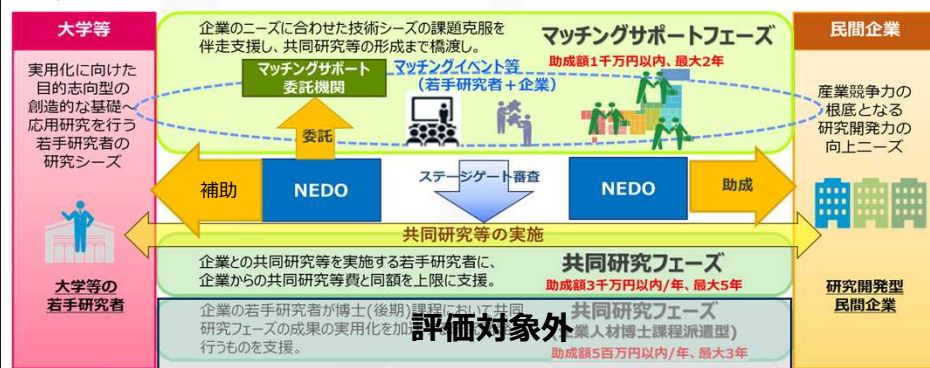
継続

官民による若手研究者発掘支援事業



概要

本制度は、目的志向型の創造的な基礎研究又は応用研究を行う若手研究者（45歳未満）を発掘し、実用化に向けた産学連携体制での研究開発の実施を支援することにより、次世代のイノベーションを担う人材を育成するとともに、我が国における新産業の創出に貢献することを目的とする。



【PMgr】中島徹人

【プロジェクト類型】テーマ公募型研究開発

政策や他事業との関係

■JST A-STEP

大学等の研究成果の社会還元を目指すプログラムで、対象を若手研究者に限定していない。官民が連携して産業界のニーズ目線で若手研究者の発掘支援と新産業創出を目指す本事業とは異なる。

■NEDO先導研究プログラム／未踏チャレンジ

本事業とは異なり、支援対象を若手研究者に限定していない。また、対象分野を省エネルギー・新エネルギー・CO2削減等のエネルギー・環境分野に限定していることに加え、将来の国家プロジェクトに繋げていくための研究開発を想定しているため、本事業とは目的が異なる。

目標

アウトプット目標	- マッチングサポートフェーズにおいては、採択テーマのうち30%以上を企業との共同研究等の実施に繋げることを目標とする。 - 共同研究フェーズにおいては、終了した研究開発テーマの終了時評価における「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見通し」の評価項目の4段階評価が最上位又は上位の区分となる比率を15%以上とすることを目標とする。
アウトカム目標	共同研究フェーズ（企業人材博士課程派遣型）も活用しつつ、共同研究フェーズ終了後から5年後の時点で、実用化に至った研究テーマが25%以上となることを目標とする。
アウトカム目標達成に向けての取組	マッチングサポートフェーズにおいては、大学等に所属する若手研究者と企業とのマッチングを伴走型で支援する。共同研究フェーズにおいては、大学等の若手研究者と企業との共同研究等による研究開発を積極的に支援する。また、共同研究フェーズ（企業人材博士課程派遣型）においては、企業に所属する若手研究者が大学等の博士（後期）課程に入学し、共同研究等による研究開発を行うものを支援する。これらにより、大学等と企業との連携を促進し、官民協調による若手研究者の発掘及び育成の実現を目指す。

事業計画

<スケジュール、想定する予算規模>

	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	～
マッチングサポートフェーズ							
共同研究フェーズ							
共同研究フェーズ（企業人材博士課程派遣型）							
評価時期			中間評価			中間評価	
予算（億円）	11.0	17.0	18.0	19.2	19.1	19.0	-

報告内容



1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋

- (1) 本事業の位置づけ・意義
- (2) アウトカム達成までの道筋
- (3) 知的財産・標準化戦略



2. 目標及び達成状況

- (1) アウトカム目標及び達成見込み
- (2) アウトプット目標及び達成状況



3. マネジメント

- (1) 実施体制
- (2) 受益者負担の考え方
- (3) 研究開発計画

＜評価項目 1＞ 意義・アウトカム（社会実装） 達成までの道筋

- （１）本事業の位置づけ・意義
- （２）アウトカム達成までの道筋
- （３）知的財産・標準化戦略

報告内容



1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋

- (1) 本事業の位置づけ・意義
- (2) アウトカム達成までの道筋
- (3) 知的財産・標準化戦略



2. 目標及び達成状況

- (1) アウトカム目標及び達成見込み
- (2) アウトプット目標及び達成状況



3. マネジメント

- (1) 実施体制
- (2) 受益者負担の考え方
- (3) 研究開発計画

事業の背景・目的・将来像

社会的背景

<大学側の課題>

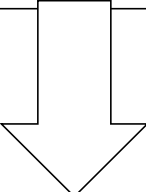
- ・ 国際的なイノベーションランキング等で我が国の地位は相対的に低下
- ・ 次世代を担う若手研究者が自律的に研究開発を実施するための環境整備が不十分

<産業界側の課題>

- ・ 我が国における企業の総研究費に占める大学への研究費の拠出割合は主要国と比較して低く、産業界が大学の機能・リソースを十分に活用できているとは言い難い

<世界の動き>

- ・ 産学連携を通じたイノベーション創出に寄与する若手研究者への支援を展開（Horizon、Innovate UK等）



大学や産業界が抱える課題を克服していくうえで「産学連携」は有効であるが、我が国において、特に若手研究者の技術シーズと、企業ニーズのマッチングを図る仕組みは不十分
NEDOの関与の下、若手研究者と企業とのマッチングを進め、産学連携を加速させる仕組みの構築が重要

将来像

大学等の若手研究者の有望なシーズ研究をイノベーションに繋げるための産学連携スキームが構築され、次世代で活躍するイノベーション人材を持続的かつ自律的に育成することができている。

政策・施策における位置づけ

<関連する計画・通知等>

■ 第5期「科学技術基本計画」（2016年1月22日閣議決定）

- 企業、大学、公的研究機関が、それぞれの競争力を高めるとともに、人材や知の流動性を高め、適材適所に配置していくことを促す。これに伴って**産学官連携活動を本格化**する。
- 先行きの見通しが立ちにくい時代を牽引する主役とも言うべき**若手人材の育成・活躍促進を中心に**、基盤的な力の抜本的な強化に向けた取組を進める。

■ 第6期「科学技術基本計画」（2021年3月26日閣議決定）

- 大学・国立研究開発法人等が有するイノベーションの源泉である知と社会ニーズとのマッチングを加速化するため、**産学官共同研究の推進や、若手研究者と産業界とのマッチングを強化**する。

政策・施策における位置づけ

＜関連する計画・通知等＞（続き）

■ 「統合イノベーション戦略2019」（2019年6月21日閣議決定）

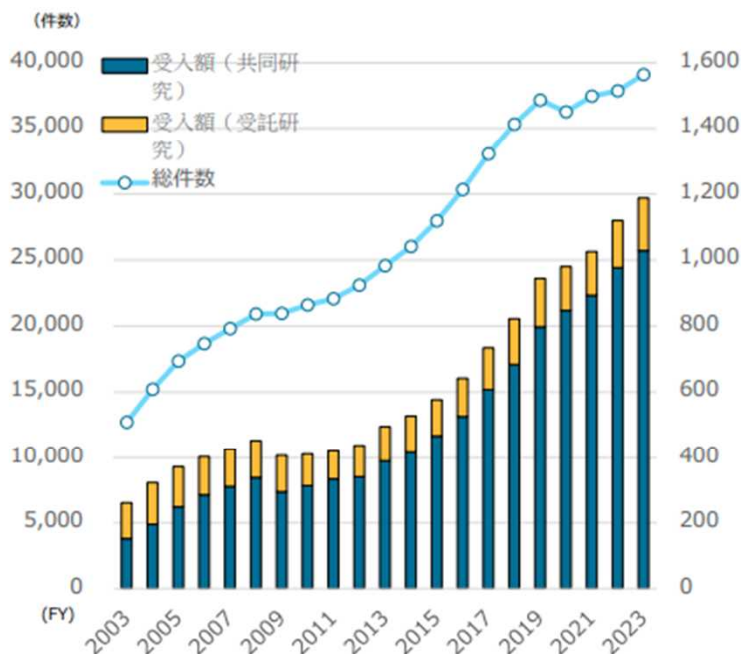
- 研究力強化に必要な人材・資金・環境の三位一体改革により、我が国の研究力を総合的・抜本的に強化するため、**若手研究者のポスト及び研究資金への重点化等の具体的な施策**を行う。

■ 「統合イノベーション戦略2024」（2024年6月4日閣議決定）

- 次代を担う**自立した若手研究者の育成**のため、大胆な資源配分、研究時間確保のための負担軽減、大学の有する知的資源の価値化等に取り組んでいく。
- 創造的で多様な人材の育成、教育の充実と活躍促進に向けた産学官での取組強化のために、**共同研究を通じた民間企業社員の博士号取得を推進**することにより、博士人材の活躍による研究力やイノベーション創出の強化を目指す。

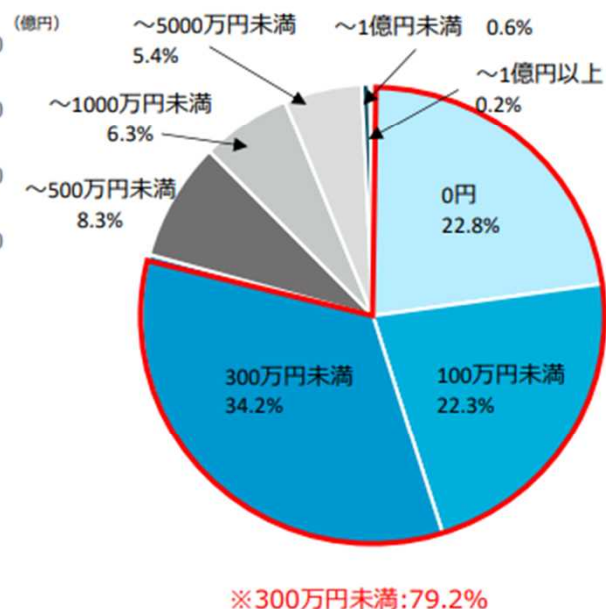
外部環境の状況（技術、市場、制度、政策動向など）

大学と国内民間企業との共同・受託研究実績



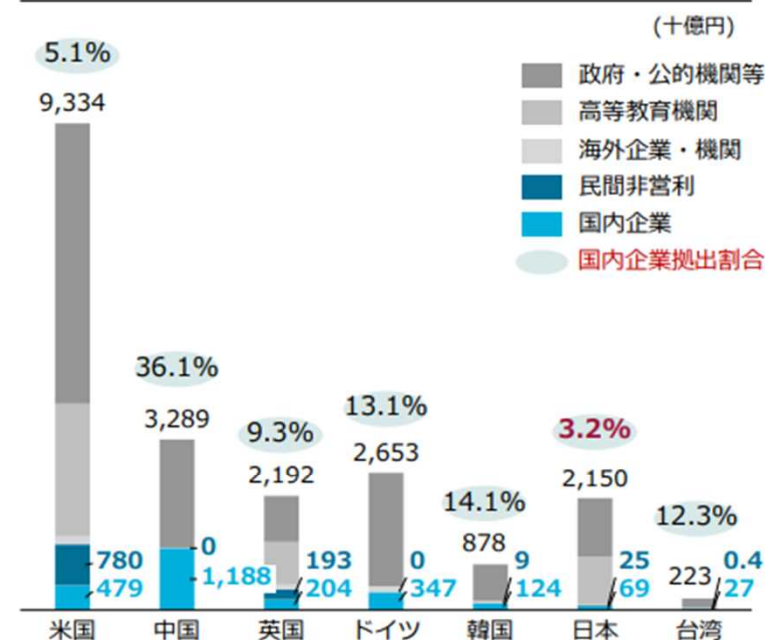
（出典）文部科学省「令和5年度大学等における産学連携等実施状況について」

大学等における1件当たり共同研究費



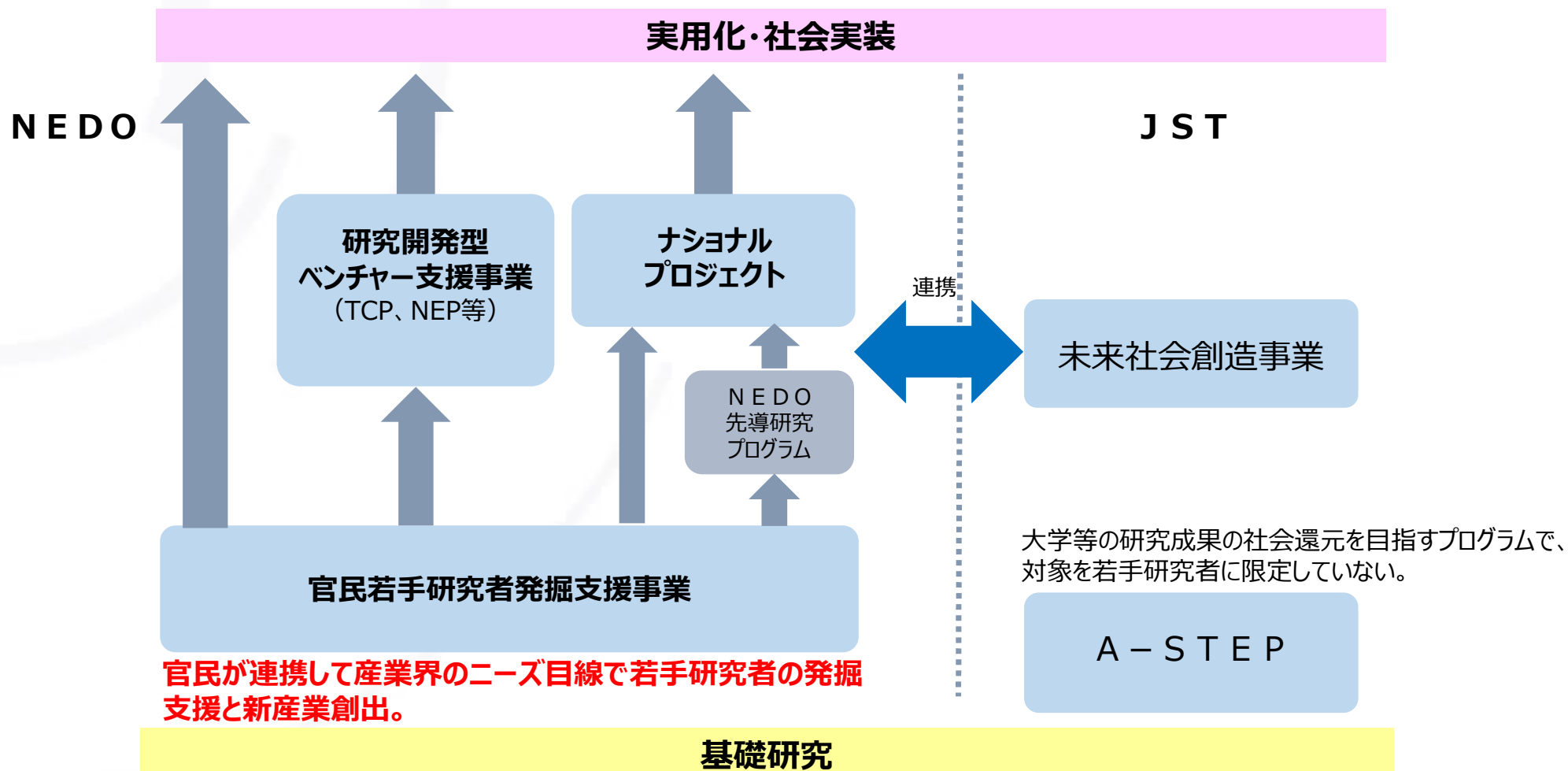
（出典）文部科学省「令和5年度大学等における産学連携等実施状況について」

高等教育機関のR&D支出および
国内企業による拠出割合（2021年）

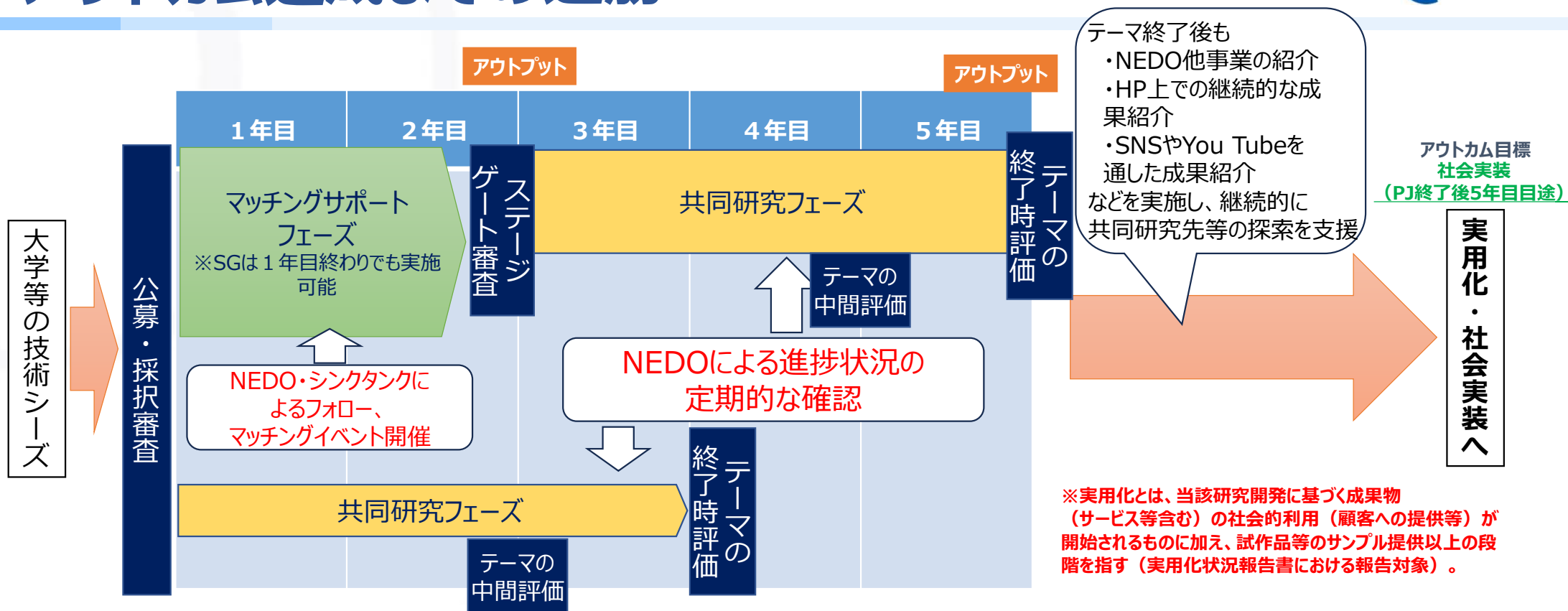


※R&D出資額は2021年の年間平均TTBレートで円換算
（出典）OECD「Research and Development statistics」

他事業との関係



アウトカム達成までの道筋



【アウトプット目標】

＜マッチングサポートフェーズ＞

○採択テーマのうち**30%以上**を企業との共同研究等の実施に繋げる

＜共同研究フェーズ＞

○テーマの終了時評価の評価項目で、**4段階**評点が最上位又は上位の区分となる比率を**15%以上**

【アウトカム目標】

○共同研究フェーズ終了後から5年後の時点で、**実用化**に至った研究テーマが**7.5%以上**

知的財産・標準化、知的財産管理

- ・知的財産権については、実施者に帰属させるとともに積極的な活用を促している。
なお、特許出願の際には、経済施策を一体的に講ずることによる安全保障の確保の推進に関する法律を遵守することとしている。
- ・当該事業で採択している若手研究者（マッチングサポートフェーズ、共同研究フェーズ）に対して、産学連携セミナーにおいて**産業財産権・秘密情報の取り扱いに関する講義を実施し、産学連携による共同研究等を実施する上での知識等の向上を図っている。**

- セミナーの具体的な内容
 - ー企業における考え方
 - ー成功事例
 - ー失敗事例
 - ー弁護士／弁理士からの講演など



＜評価項目 2＞ 目標及び達成状況

- (1) アウトカム目標及び達成見込み
- (2) アウトプット目標及び達成状況

報告内容



1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋

- (1) 本事業の位置づけ・意義
- (2) アウトカム達成までの道筋
- (3) 知的財産・標準化戦略



2. 目標及び達成状況

- (1) アウトカム目標及び達成見込み
- (2) アウトプット目標及び達成状況



3. マネジメント

- (1) 実施体制
- (2) 受益者負担の考え方
- (3) 研究開発計画

実用化の考え方とアウトカム目標の設定及び根拠

アウトカム目標	根拠
令和16年度（2034年度）までに、共同研究フェーズ終了後から5年後の時点で実用化に至った研究テーマの採択件数に占める比率を7.5%以上とする。	NEDO中小・ベンチャー等向け支援事業における、事業終了から5年後の実用化率の実績（29%）と本事業の特性を考慮し、共同研究フェーズ終了から5年後の時点における実用化率を25%と設定。この実用化率（25%）とマッチングサポートフェーズの目標（30%）を掛け合わせ、アウトカム目標を7.5%と設定。

社会実装（共同研究フェーズ終了後5年）

<共同研究フェーズ>

- 終了した研究開発テーマの終了時評価における「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見通し」の評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分となる比率を15%以上とする

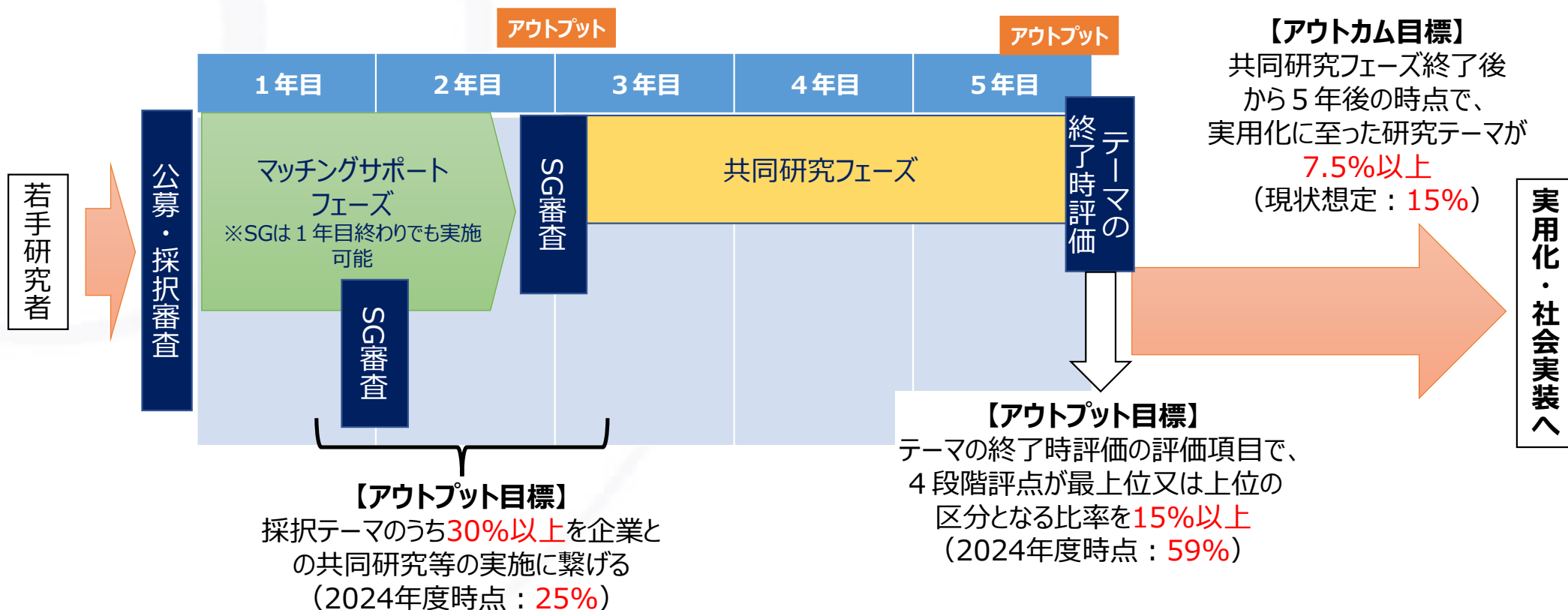
<マッチングサポートフェーズ>

- 採択テーマのうち30%以上を企業との共同研究等の実施に繋げる

当該PJにおける実用化とは、当該研究開発に基づく成果物（サービス等含む）の社会的利用（顧客への提供等）が開始されるものに加え、試作品等のサンプル提供以上の段階を指す（実用化状況報告書における報告対象）。

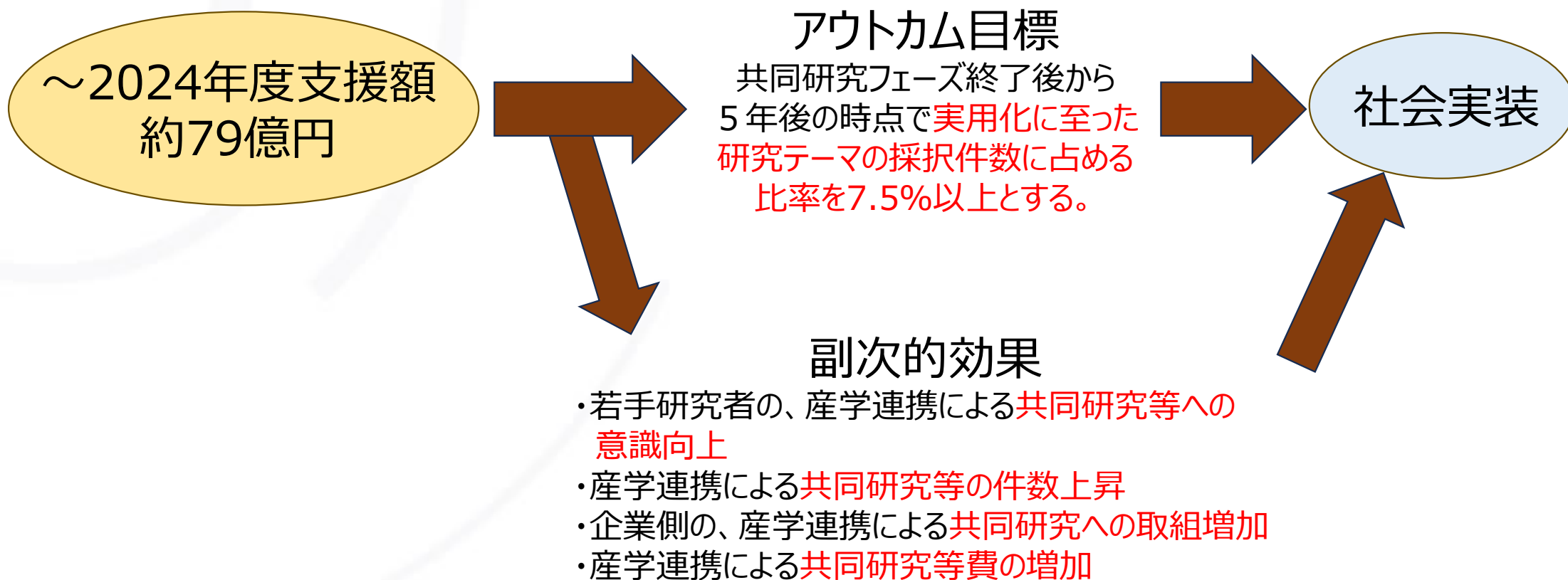
プロジェクト類型	実用化・事業化の考え方
基礎的・基盤的研究開発	プロジェクト終了後5年を目処に（もしくはそれ以上の期間で）、実用化まで達することを目指す研究開発

アウトカム目標の達成見込み



※実用化とは、当該研究開発に基づく成果物（サービス等含む）の社会的利用（顧客への提供等）が開始されるものに加え、試作品等のサンプル提供以上の段階を指す（実用化状況報告書における報告対象）。

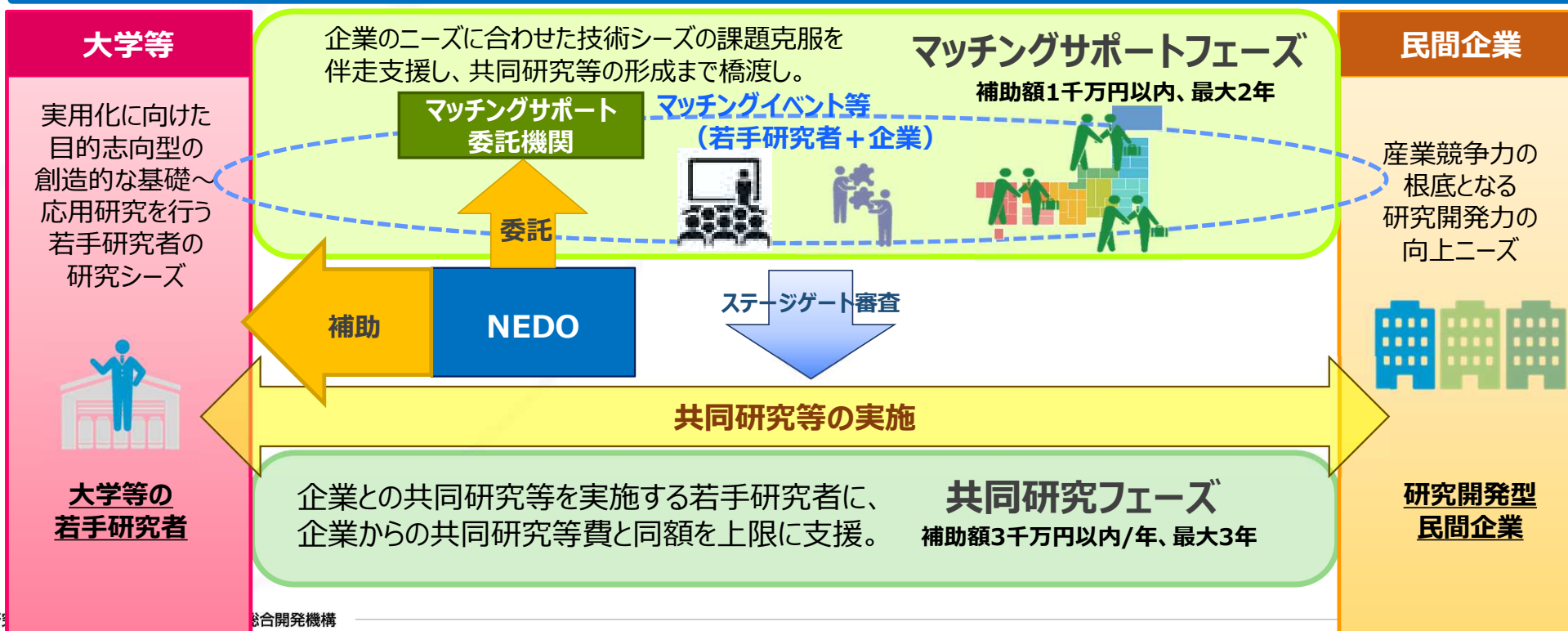
費用対効果、研究開発成果の副次的成果等



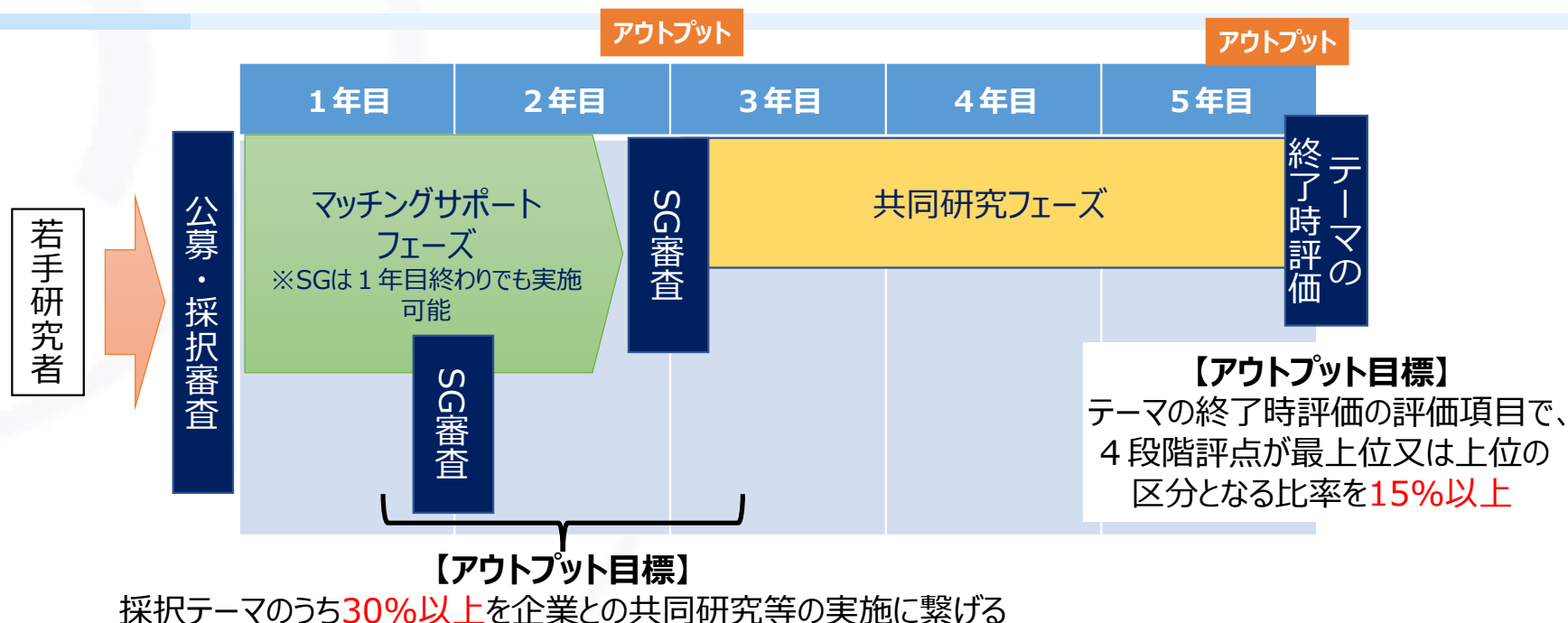
本事業における研究開発項目の位置づけ

【制度の目的】

目的志向型の創造的な基礎研究又は応用研究を行う若手研究者を発掘し、実用化に向けた産学連携体制での研究開発の実施を支援することにより、次世代のイノベーションを担う人材を育成するとともに、我が国における新産業の創出に貢献することを目的とする。



アウトプット（中間）目標の設定及び根拠



【根拠】

- 過去の類似事業のデータを踏まえ、マッチングサポートフェーズでの採択案件のうち企業との共同研究等の実施につながるものを**30%程度と想定**
- NEDO/JSTの産学マッチングイベント「イノベーション・ジャパン」で、イベントを通して共同研究等まで進展したマッチング率が、**毎年20～30%程度**
- JSTの「新技術説明会」（大学等の公的研究機関から創出された研究成果に基づく特許技術の紹介イベント）を通じたマッチング率が**29.4%**

本事業は若手の将来の研究展望に期待した事業であることを考慮し、上記とほぼ同等のマッチング率を達成可能と想定

アウトプット目標の達成状況

応募件数及び採択件数推移（フェーズ毎）

		第1回公募 (2020年11月 採択決定)	第2回公募 (2021年5月 採択決定)	第3回公募 (2022年1月 採択決定)	第4回公募 (2022年8月 採択決定)	第5回公募 (2023年7月 採択決定)	第6回公募 (2024年8月 採択決定)	第7回公募 (2025年1月 採択決定)	合計
マッチング サポート フェーズ	応募	154	89	167	168	212	165	—	955
	採択	36	17	104※	119	31	26	—	333
	倍率	4.3	5.2	1.6	1.4	6.8	6.3	—	2.9
共同研究 フェーズ	応募	30	21	48	18	17	27	3	164
	採択	25	15※	35※	12	7	17	3	114
	倍率	1.2	1.4	1.4	1.5	2.4	1.6	1.0	1.4

※採択後辞退者除く

アウトプット目標の達成状況 マッチングサポートフェーズ

- 採択若手研究者の**ほぼ全テーマで企業との面談を実施**
- これまでに**75テーマが共同研究等を形成して共同研究フェーズで事業実施**

※マッチングサポートフェーズ終了後に共同研究等を形成して共同研究フェーズに新規採択されたテーマや、当該事業以外で共同研究等の実施に至ったテーマは含めない

	マッチングサポート フェーズ採択テーマ (数)	1年度目終了時点 SG審査		2年度目終了時点 SG審査		合計		
		申請数	通過数	申請数	通過数	申請数	通過数	通過数／ 採択数 (%)
第1回公募 (2020年11月 採択決定)	36	1	1	12	10	13	11	31
第2回公募 (2021年5月 採択決定)	17	0	0	5	5	5	5	29
第3回公募 (2022年1月 採択決定)	104	14	12	12	11	26	23	22
第4回公募 (2022年8月 採択決定)	119	19	18	14	12	33	30	25
第5回公募 (2023年7月 採択決定)	31	6	6	—	—	6	6	20
第6回公募 (2024年8月 採択決定)	26	—	—	—	—	—	—	—

国立研究開発法人科学技術振興機構

※スキームの変更実施

アウトプット目標の達成状況 共同研究フェーズ

- 共同研究フェーズにおける当該アウトプット目標を設定
- **50%以上**のテーマが目標を達成

目標達成テーマ数	目標未達成テーマ数
10 (59%)	7 (41%)

特許出願及び論文発表

マッチングサポートフェーズ(n=386)

(2025年5月30日時点)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度※1	計
特許出願 (件)	22	76	127	18	243
論文発表 (件)	38	258	230	-	526
プレスリリース (件)	17	89	43	-	149
受賞実績 (件)	0	30	16	-	46
その他対外発信 (件)	12	48	123	-	183

共同研究フェーズ(n=206)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度※1	計
特許出願 (件)	12	27	63	45	147
論文発表 (件)	37	79	94	-	210
プレスリリース (件)	1	5	5	-	11
受賞実績 (件)	1	3	10	-	14
その他対外発信 (件)	6	12	50	-	68

＜評価項目 3＞ マネジメント

- (1) 実施体制
- (2) 受益者負担の考え方
- (3) 研究開発計画

報告内容



1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋

- (1) 本事業の位置づけ・意義
- (2) アウトカム達成までの道筋
- (3) 知的財産・標準化戦略



2. 目標及び達成状況

- (1) アウトカム目標及び達成見込み
- (2) アウトプット目標及び達成状況



3. マネジメント

- (1) 実施体制
- (2) 受益者負担の考え方
- (3) 研究開発計画

NEDOが実施する意義

NEDOは公的機関の立場から、分野・地域横断的に幅広く若手研究者の産学連携による共同研究等の実施を支援し、社会実装へのパスを構築

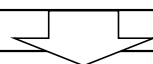
共同研究等を実施する相手先企業を探す若手研究者

<マッチング支援>

- ①多様な技術シーズをまとめて紹介することで企業への訴求力を高めた効果的なマッチング
- ②NEDOが有する産業界とのネットワークを活用
- ③全国規模でのマッチング

<企業との共同研究等につなげるための支援>

若手研究者の技術シーズのブラッシュアップ（企業にアピールするための試作品の製作や、企業ニーズを踏まえた研究開発等）を支援



共同研究等の形成に至った若手研究者

<共同研究等の実施への支援>

若手研究者と企業による、実用化に向けた共同研究等の実施を加速するため、企業が若手研究者に提供する共同研究等費と同額をNEDOが若手研究者に支援

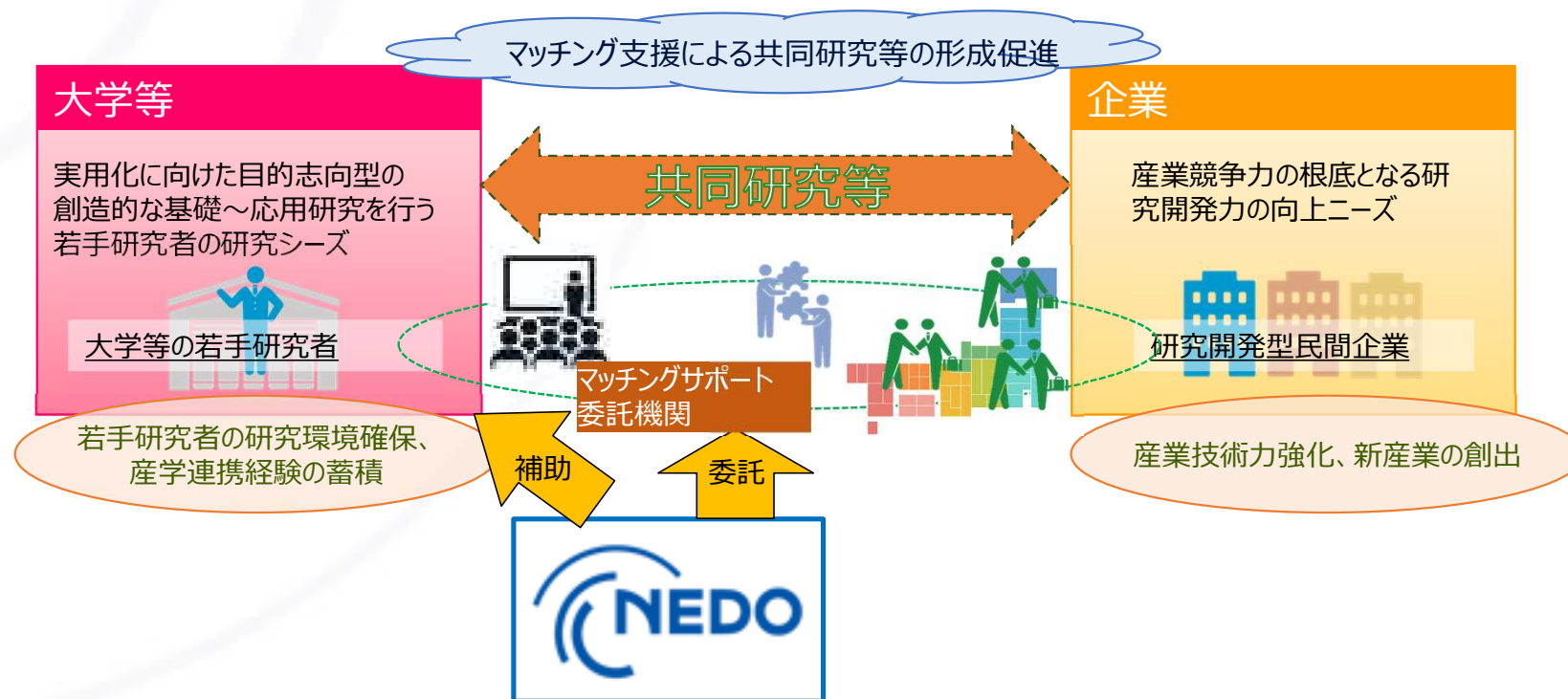


企業における研究開発を通じて社会実装へ

実施体制（マッチングサポートフェーズ）

大学等に所属し、産業界が期待する目的志向型の創造的な基礎研究又は応用研究を実施する
若手研究者と企業との共同研究等の機会を創出するためのマッチング支援を実施

※NEDO及びマッチングサポート委託機関による、技術シーズのNEDOウェブサイト掲載、共同研究等の形成に向けた
マッチングイベント・研修・講習会等の開催



実施体制（共同研究フェーズ）

大学等に所属する若手研究者が企業と共同研究等の実施に係る合意書を締結し、企業から大学等に対して共同研究等費用が支払われることを条件として、実用化に向けた目的志向型の創造的な基礎研究又は応用研究を実施するものについて支援を実施



個別事業の採択プロセス

(約1ヶ月)

- ・事業説明会（要望に応じて通年で随時実施）
- ・産学連携学会、地方産学連携会議等にて広く事業・公募内容を説明
- ・ポテンシャルはあるが提案がない大学の学長等に対し個別説明実施を打診

(1～2ヶ月)

- ・公募説明会（オンライン全4回）
- ・NEDO、METIAアカウントSNSでの投稿、地方経済産業局への広報依頼、学会HPへの掲載依頼、Web広告の実施等を通じ、公募情報を広く発信。

公募予告

公募

(外部評価)

一次審査
(ピアレビューによる
事前書面審査)

(審査準備含めて5週間程度)

- ・幅広い提案分野に対応する**1,000名以上の外部評価者の中から選出した3名以上の評価者**により、技術及び実用化の観点から評価。

二次審査
(採択審査委員会)

(審査準備含めて5週間程度)

- ・一次審査において評価が分かれた提案、及び採択審査委員会委員による事前確認で要審議とされた提案について、技術及び実用化の観点から総合評価。
- ※特に、**研究開発成果が産業応用される可能性を重視**

(内部評価)

契約・助成審査委員会

(審査準備含めて2週間程度)

- ・交付決定する補助金額が20百万円を超えるテーマについて、補助事業者の要件を含めた補助金交付の妥当性について審査。

採択決定、通知、結果公表

(1週間程度)

- ・決定後すみやかに通知郵送及びe-Radにて通知(公募締切から90日以内)。

予算及び受益者負担

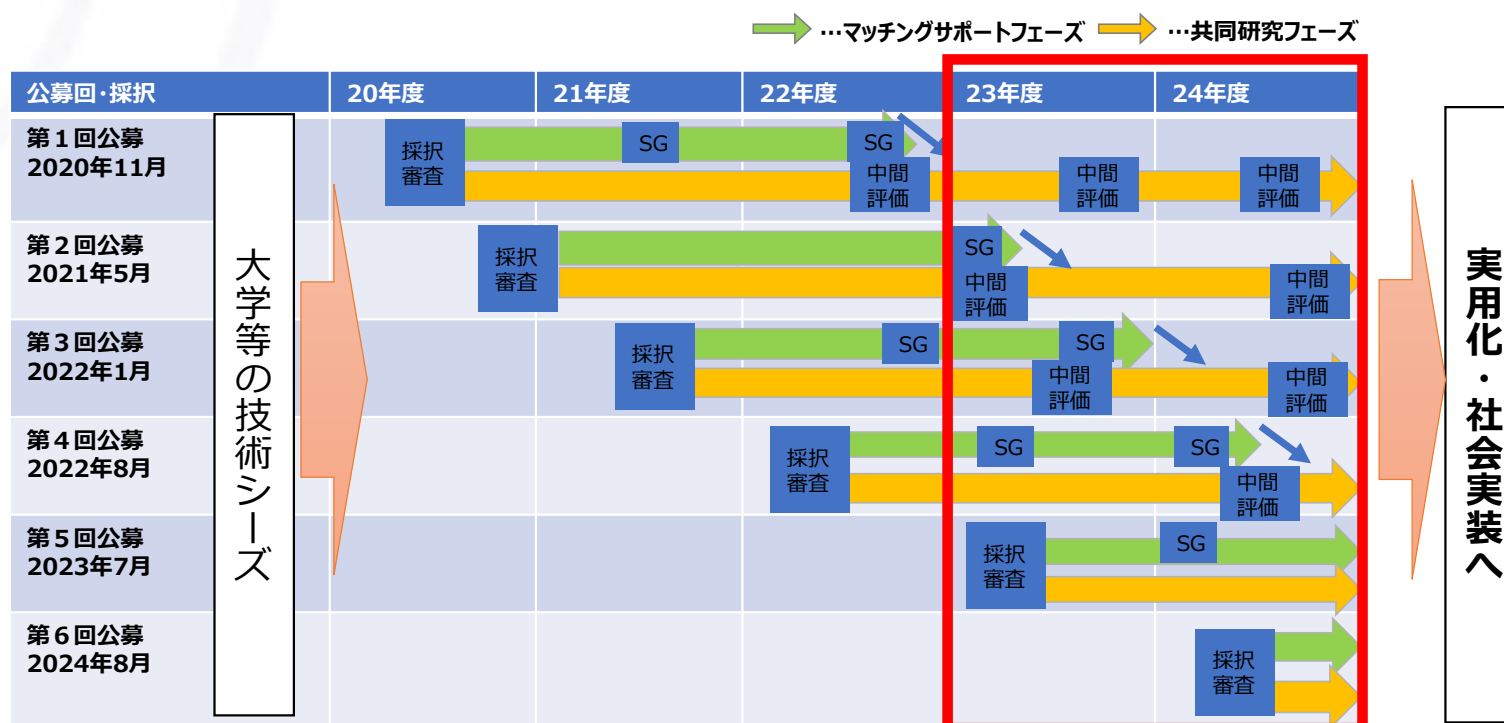
- ・マッチングサポートフェーズ及び共同研究フェーズについては、補助事業で実施
⇒産学連携による共同研究等の促進を目指す当該事業としては、**NEDOの負担額はあくまでも呼び水**と考えているため、**事業実施期間中から企業からも拠出いただく**ことが妥当と考えている。
- ・マッチングサポート支援は、委託事業で実施
⇒**NEDOとして若手研究者にサポートすべき事項**を、支援経験を持ち合わせている機関と協力して実施することが効果的であるため、委託事業が妥当と考えている。

年度別補助額（NEDO負担）

	2020	2021	2022	2023	2024	合計
NEDO負担額 (百万円)	178	899	3,369	1,752	1,723	7,921

研究開発のスケジュール

- ・マッチングサポートフェーズのテーマは、ステージゲート審査を経て共同研究フェーズに移行
- ・共同研究フェーズのテーマは、2年目終了時に中間評価を経て、3年目を実施



※1 共同研究フェーズから事業を開始することも可（公募で採択）

※2 マッチングサポートにおける補助金の交付期間・金額は公募毎に設定（マッチング支援は2年間実施）

進捗管理

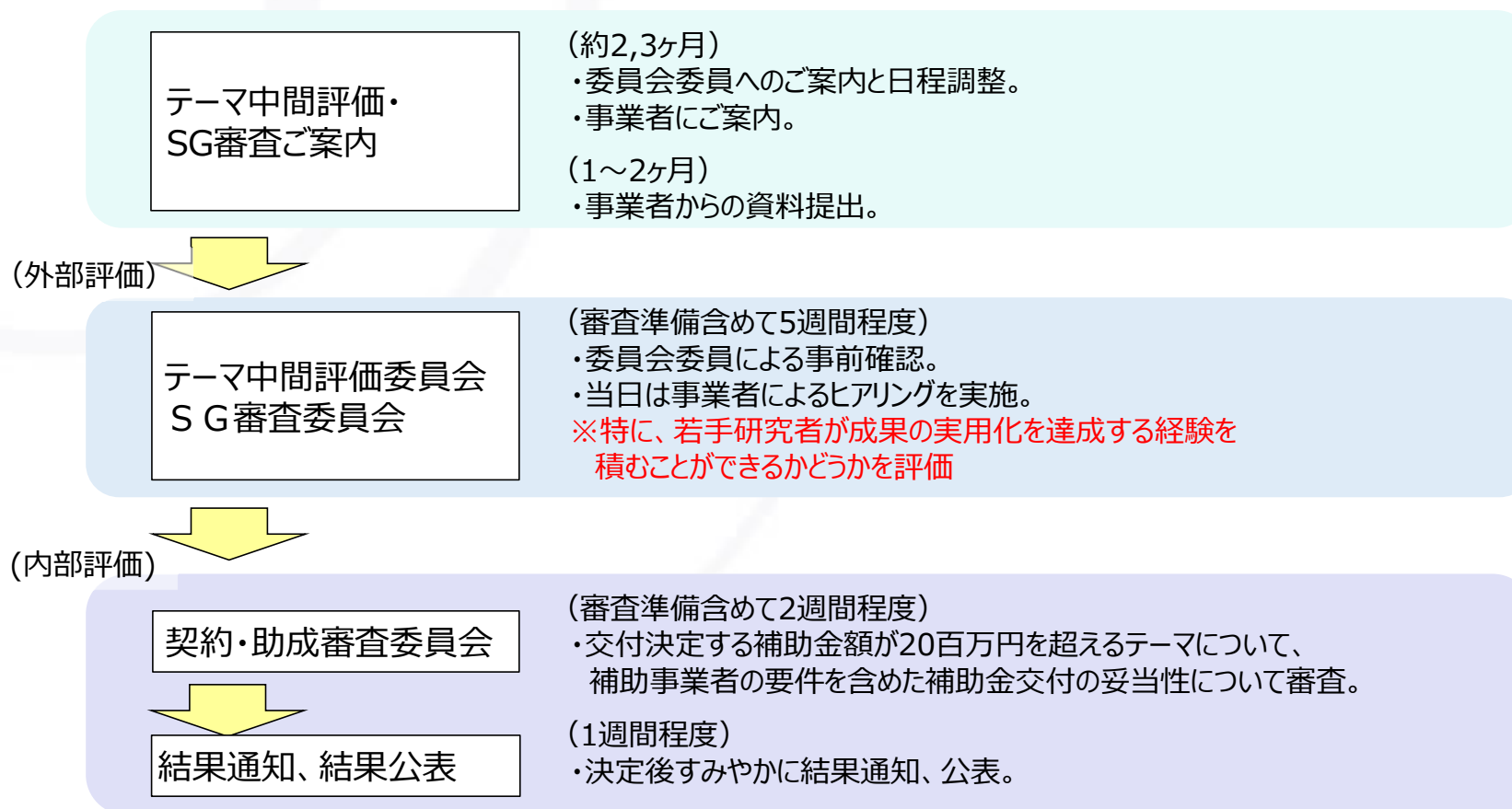
各段階で、進捗管理のため会議や評価を実施し、進捗管理に努めている。

会議名	主なメンバー	対象・目的	頻度	主催
採択審査	- 外部有識者 - PMgr、PT	各フェーズへの提案者に対して、外部有識者による審査を実施	公募毎	NEDO
ステージゲート審査	- 外部有識者 - PMgr、PT	マッチングサポートフェーズから共同研究フェーズへの移行時に開催し、共同研究フェーズへの移行可否について外部有識者による確認を実施	年に1回	NEDO
テーマ中間評価	- 外部有識者 - PMgr、PT	共同研究フェーズの2年目から3年目に研究開発項目ごとに設置し、個別の技術開発の進捗状況等について外部有識者による確認を実施	研究開発項目ごとに年に1回	NEDO
テーマ終了時評価	- 外部有識者 - PMgr、PT	研究開発の成果についての権利化・秘匿化等の方針決定や実施許諾に関する調整、知財に係る進捗管理を実施	共同研究フェーズ終了時	NEDO
NEDO内会議	PMgr、PT	PMgr等のNEDO内関係者で定期的にプロジェクト全体の進捗を確認し、今後の方向性を議論	適宜開催	NEDO

進捗管理

テーマ中間評価・ステージゲート (SG) 審査プロセス

若サポ テーマ中間評価・SG審査の基本的な流れ



進捗管理 テーマ終了後

- ・テーマ終了後には、テーマ毎の評価の実施、**研究開発達成度や実用化に向けた方針**などを議論
- ・テーマ終了後も成果の**実用化状況や特許出願、論文発表**などに関する調査を実施

	N-1	N年度	N+1	N+2	N+3	N+4	N+5	N+6
事業 執行		 						
テーマ 終了時 評価			テーマ終了時評価 					
テーマ 終了後 調査				N+1年度分 	N+2年度分 	N+3年度分 	N+4年度分 	N+5年度分 

進捗管理 若サポ全体に係るマネジメント (1)

①新たな技術シーズの掘り起こし

本事業では、公募において対象領域を設けず、**若手研究者から幅広く提案（技術シーズ）を募集。**

②産学連携を志向する若手研究者の発掘（提案数の増加に向けた取り組み）

研究者数からみた**産学連携の潜在的ポテンシャル**に比して**若サポへの提案数が少ない大学**に対し、**個別に公募説明会や技術相談を実施。**

（第3回公募：13大学、第4回公募：16大学、第5回公募：19大学へ個別説明会実施）

③研究者ヒアリングの実施

採択した研究者とNEDOが直接面談を実施。

本事業の趣旨が学術研究支援ではなく、企業との共同研究等の実現を通じて、**研究者の技術シーズの実用化・社会実装を目指すものであることを動機付け。**

加えて、本事業を知った経緯を聞き取り、若手研究者発掘の取り組みに活用。

さらに、**事業制度に対する改善要望などを聴取して、事業運営に活用。**

（例）研究者の産学連携経験に合わせて、成功事例や工業所有権情報・研修館（INPIT）による知財戦略などを紹介する研修を実施。

進捗管理 若サポ全体に係るマネジメント (2)

④柔軟なマネジメントの変更

i) 機動的なマネジメント

マッチング支援において、企業とのマッチング向上を目指して、これまでに複数回スキーム（予算交付期間、予算額、マッチングフェーズ実施中の中間評価の実施有無 など）の変更を実施し、早期のマッチングの実現やマッチング率の向上を目指している。

ii) ダイバーシティ拡大の推進と年齢要件の緩和

女性研究者からの提案数の増加をはじめとする、ダイバーシティ拡充に向けた取り組みとして、過去に説明会に参加された大学等の研究者やURAにヒアリングを行い、ダイバーシティの状況や課題について意見を収集。

それにより、出産・育児・介護により研究に専念できない期間があった者については、年齢要件を「45歳未満」から「50歳未満」へ緩和し、ダイバーシティの拡大に努めている。

進捗管理 マatchingサポートフェーズにおけるマネジメント (1)

若手研究者と企業との**共同研究等の実現**に向けて、支援機関と協力して以下の支援を実施

①企業とのマatchingに向けた研究者支援

- ー伴走型の**フォローアップ支援**
- ー**産学連携セミナー等の開催**

②企業の関心事項に関する調査等

- ー採択研究者の技術シーズに対する**企業の関心事項・要望等の取り纏め**
- ー**企業ニーズの取り纏め**、採択研究者とのマatchingを実施

③企業とのマatchingの場の創出

- ー技術シーズの**Webサイト掲載**
- ー**シーズ発信イベント・マatchingイベント開催**

④産学連携マネジメントと自立的に進展する仕組の構築に向けた分析・整理・提言

- ー**産学連携マネジメントのあり方の分析・整理・検討**
- ー**産学連携が自立的に進展する仕組みの構築に向けた分析・検討・提言**

若手研究者産学連携プラットフォーム
<https://wakasapo.nedo.go.jp/>



進捗管理 マatchingサポートフェーズにおけるマネジメント (2)

例えば…

2024年2月にオンラインのマッチングイベントを開催

技術シーズのピッチ形式での紹介以外に、マッチングサポートフェーズから共同研究フェーズへ進んだ研究者の共同研究等実施先企業に産業界の考え方、共同研究等を実施するメリットを紹介。

《開催概要》

- ✓ 開催日時：
2024年2月7日（水）13:00-17:30
- ✓ 参加費：無料
- ✓ 参加方法：YouTubeにてライブ配信
- ✓ 紹介技術シーズ数：30テーマ
- ✓ 参加者数：454名

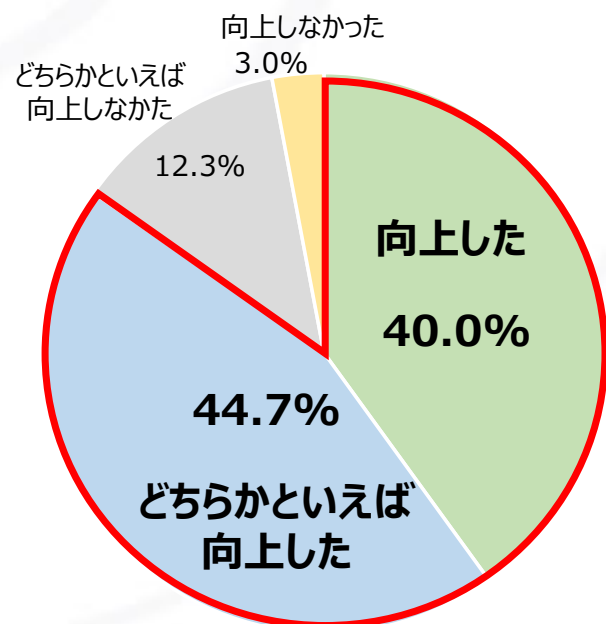


進捗管理 マatchingサポートフェーズにおけるMatching支援成果

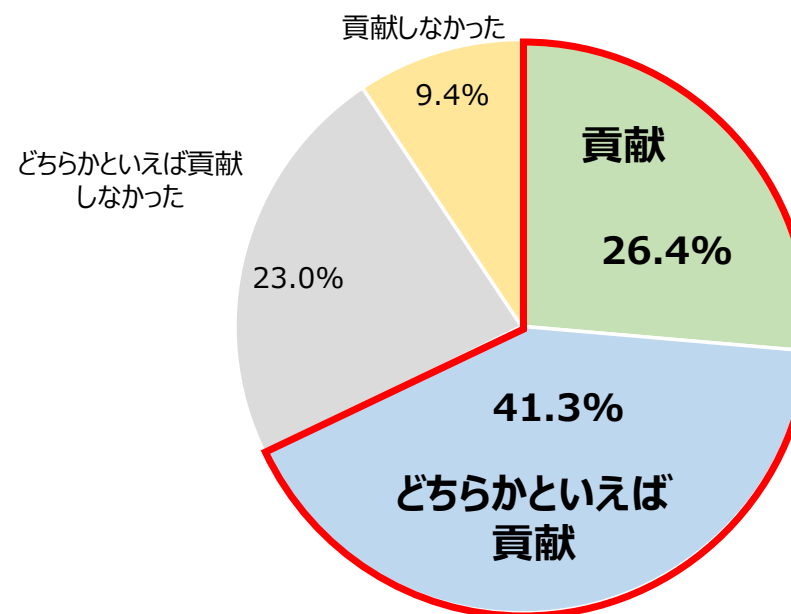
Matchingサポートフェーズにおける支援の結果、

- ・ **8割以上**の若手研究者の共同研究等に対する**意識が向上**
- ・ **約7割**の若手研究者の**共同研究等の実施に貢献**

共同研究等への意識の向上



共同研究等の実施への貢献度



進捗管理 共同研究フェーズにおけるマネジメント

各補助事業（テーマ）の共同研究等の状況や、研究者が必要とする産学連携情報に応じて、以下の支援を実施

①若手研究者の産学連携スキルアップ支援

マッチングサポートフェーズで実施している**産学連携セミナー（特に産業財産権に関する講義）**の受講を案内

②事業成果の実用化に向けた更なる産学連携の形成支援

実用化に向けて**別分野の企業の協力が必要な場合**など（例：特許取得のため、機械装置を作る企業と連携したい等）、**研究者からの相談に応じて情報を提供**

③事業進捗に応じた共同研究等の拡充支援

研究開発事業において一定の進捗が認められ、企業が実用化の加速の観点で大学等への共同研究等費を増額する場合、**NEDOから大学等への補助金額も増額して、共同研究等の拡充を支援**

④出口支援

共同研究フェーズでの研究開発事業終了後、実用化までの間に追加的な研究開発が必要なテーマについては、**先導研究プログラム等、研究開発フェーズを上げた他のNEDOプロジェクトへの応募を支援**

進捗管理 成果普及への取り組み



著しい研究開発成果があった場合、NEDO・事業者（大学等）・共同研究等相手先企業による共同プレスリリースやNEDO公式X（旧：twitter）、NEDO Facebookでの成果発信を行い、**研究開発成果及び産学連携**による**共同研究等の有効性や魅力を広くアピール**

NEDO 新エネルギー・産業技術総合開発機構

自己紹介

NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構) の公式facebookアカウントです。

ページ・政府機関

川崎市 (Japan・神奈川県)大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー

044-520-5100

nedo.go.jp

まだ評価はありません(レビュー0件)

すべての写真を見る

NEDO 新エネルギー・産業技術総合開発機構

9月6日・

【水素イオンの注入がSiCパワー半導体内部の積層欠陥の拡張を抑制できることを発見】

NEDOは、「官民による若手研究者発掘支援事業（若サポ）」により、若手研究者と企業との共同研究等を支援し、新産業の創出に貢献することを目指しています。

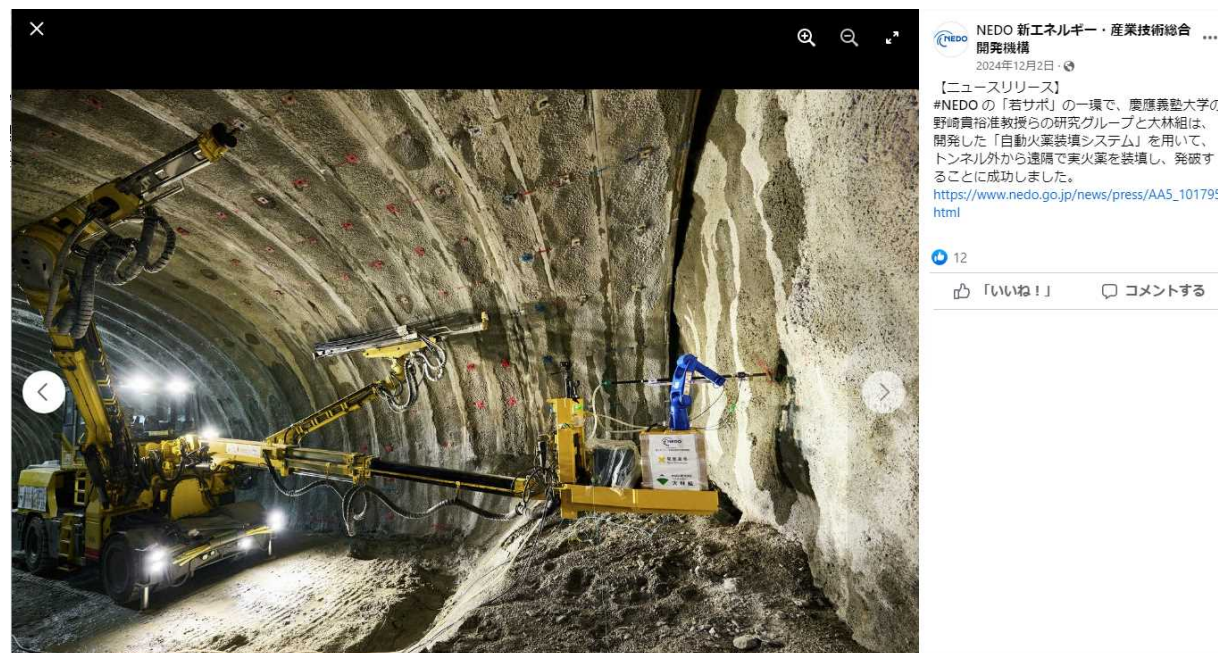
今般、若サポで支援している名古屋工業大学大学院工学研究科の加藤正史准教授は名古屋大学未来材料・システム研究所の原田准教授及び共同研究先である住重アテックス株式会社とともに、SiCエビウェバーに水素イオンを注入することで、SiCパワー半導体の電気特性を落とすことなく積層欠陥の拡張を抑制することに成功しました。SiCパワー半導体の長期信頼性における課題解決につながることを期待されます。

この成果は名古屋工業大学、名古屋大学からプレスリリースされています。どうぞご覧ください。

▼名古屋工業大学プレスリリース
<https://www.nitech.ac.jp/news/press/2022/9889.html>

#若サポ は若手研究者の産学連携を応援します。

▼事業紹介
https://www.nedo.go.jp/activities/ZZIP_100166.html?from=FB



(NEDO Facebookでの成果発信例)

進捗管理 成果普及への取り組み



本事業専用のホームページやYou Tubeチャンネルも設け、成果及び研究者を紹介し、成果普及や次なる共同研究のマッチングに取り組んでいる。

安定した収穫
病害を予防するウシのストレスを見える化センサーシステム
【用途例】
ストレス見える化による疫病予防

A high-speed ceiling-mounted robot that does not use rails but can change its route flexibly
自由に経路変更可能なレールを使わない天井高速搬送ロボット (HanGrawler)
【用途例】
天井空間もロボットが自由に活用することによる生産・建設・物流現場の革新的空間利用

ハイドロゲル
葉内化学物質抽出
【用途例】
非破壊的葉内化学物質モニタリング

Recycle
食糧生産 (非可食部) 廃棄物 肥料
【用途例】
もみ殻炭のハイブリッド構造を活かしたバイオマスファイバーによる高分子複合材料の開発

地盤環境の流体流動特性の解明と利用方法の開発
【用途例】
地盤環境の流体流動特性の解明

ロボットの周期運動と非周期運動の精密・安全制御と診断
【用途例】
機械システムの制御・診断

異なる周波数を重畳した超音波による経皮薬剤投与デバイス
【用途例】
針なしでの経皮からの薬剤投与

粘土とメカノケミカル処理を用いたバイオマス等のアップサイクル技術
【用途例】
リサイクル用電極材料を用いた環境配慮型二次電池

廃太陽光パネルガラスを用いた蓄電材料の開発
【用途例】
リサイクル用電極材料を用いた環境配慮型二次電池

若手研究者産学連携プラットフォーム

若サポチャンネル
@若サポチャンネル・チャンネル登録者数 276人・340 本の動画
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) のプロジェクト...さらに表示

チャンネル登録

ホーム 動画 再生リスト

動画

【2024年度】京都市工業大学...
【2024年度】神戸大学...
【2024年度】北海道...
【2024年度】北海道...

これまでの研究開発成果

- 技術課題に対するこれまでの研究成果
- 3D造形技術によるメカニカルメタマテリアルの高効率なマルチスケール解析手法の確立
 - メカニカルメタマテリアルの振動抑制効果における数値解析手法の構築
 - 振動特性の非接触計測手法の検討と実施
- 先行しての研究成果
- メカニカルメタマテリアルのトライアル品による振動抑制効果の評価・実証試験
 - メカニカルメタマテリアルの構造部材としての構造・材料特性に関する解析的検討
 - 振動抑制機能と構造特性を両立したメカニカルメタマテリアルの設計検討



メカニカルメタマテリアルによる振動抑制を可能とする超経量構造の研究開発

進捗管理

中間評価結果への対応

	2022年度中間評価時の 問題点・改善点・今後への提言	これまでの対応状況
1	- 共同研究フェーズ終了後のアウトカム目標達成のための具体的方策 - 産学連携創出プラットフォームの構築	- 研究開発の継続に向けては、NEDOの他事業の紹介及び申請に向けた支援などを実施し、成果の拡大に向けた継続的な支援を実施 - 産学連携創出プラットフォームについては、当該事業のHPを強化し、プラットフォーム化できるようにNEDOとマッチング支援の委託先とで常にブラッシュアップを検討・実施中 新規公募における不採択者及びSG等の不通過研究者についてもHP上での掲載を継続し、企業との共同研究の実現に向けた取り組みを実施中
2	事業ブランディングの確立に向けた取り組みの実施	- ブランディングの確立に向けては、学会発表やILS等のイベントでの登壇などを通じて、普及・促進活動を実施 - 今年度からは、マッチング支援の委託先とブランディングの方向性に関する検討を実施中
3	- 提案件数増加に向けた取り組みの検討 「核」となるアイデアのキーワードの提示	- 応募者数の増加に向けては、 －担当者では、学会等での発表・参加を通じて、ポテンシャルのある大学のURAや研究者等へ積極的にアプローチし、事業紹介を実施 －担当部長からは、大学等の副学長・学部長クラスへのアプローチを実施 - キーワードについては、企業とのマッチング促進に向けて、HP内のキーワード検索機能の整理・拡充を実施し、ピンポイントかつ簡易なキーワード検索を可能に
4	SG不通過テーマに対する事後アンケート調査の実施	- SG不通過テーマに限らず、事業終了後5年間は、成果の実用化や特許出願、論文発表などに関する調査を実施し、本制度における成果及び人材育成の効果を把握 - 人材育成の事例として優れたものについてはインタビューを実施し、HP等での掲載などを実施